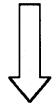


## 同一検体の TSH、T<sub>4</sub> 測定に関する検討

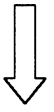
東邦大学第一内科 入 江 実  
伊 東 裕美子  
黒 田 裕 子  
榎 本 仁 志

クレチン症マス・スクリーニングにおいて同一検体の T<sub>4</sub>、TSH 両者を測定し比較検討した。1978年6月から1979年5月まで56,472例につき Disc TSH 測定を行ない、うち26,067例は Disc T<sub>4</sub> も測定した。Disc T<sub>4</sub> 測定によるスクリーニング結果は Retest 4,444例 (1.7%)、うち再び低値 (-2.6 SD) のものが63例 (0.2%) あり、3例は Disc TSH も異常のためすぐ精査を依頼し結果、3例ともクレチン症であった。残りの60例については再採血を行ない47例回収し、結果16例が低値 (-2.6 SD) のため精査を依頼し、結果2例は正常、16例は TBG 欠損症であった。Disc TSH 測定によるスクリーニング結果は Retest 1,607例 (2.8%)、うち再び高値 (3% <) のものが162例 (0.3%) あり、5例はかなり高値のためすぐ精査を依頼し、結果、4例はクレチン症、1例は一過性甲状腺機能低下症であった。このクレチン症4例中1例、および一過性の1例は Disc T<sub>4</sub> 値は正常で T<sub>4</sub> 測定によるスクリーニングでは見逃されていた。残りの157例については再採血を行ない137例が回収され、結果、1例が再び高値 (3% <) となったため精査を依頼し、一過性と診断された。

T<sub>4</sub> と TSH の両スクリーニングを比較すると T<sub>4</sub> スクリーニングにおいては精査を行なったのが19例、スクリーニング総数の0.07%を呈め、その結果、3例がクレチン症、2例が正常、4例が TBG 欠損症で、83%の false positive があった。また、見逃されたクレチン症が1例あった。TSH スクリーニングにおいては精査を行なったのが6例、スクリーニング総数の0.01%にあたり、その結果は4例がクレチン症、2例が一過性であった。つまり、TSH 測定による方が精査数が少なく適確に患児を発見することができた。



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



クレチン症マス・スクリーニングにおいて同一検体の T4、TSH 両者を測定し比較検討した  
。